



福井藩と江戸

- 会場 企画展示室
- 会期 平成20年10月4日(土)~11月9日(日)
但し、10月28日(火)は休館します。

現在、江戸や江戸時代に対する関心が高まっている中で、当展はこうした世風を反映して、さまざまな展示資料から、巨大都市「江戸」と福井藩の関わりについて紹介するものです。江戸の全景や浅草寺などの名所を描いた屏風絵や江戸藩邸の絵図、大名が江戸城へ登城する際の行列図や着用した装束、将軍家から拝領した刀などを多数展示します。

なお、当展では6つの小テーマを設けましたが、各テーマから巨大都市「江戸」をイメージしていただくと共に、福井藩や越前松平家と江戸との関わりという視点を通して、かつて江戸の中に確固とした存在をみせていた福井について、新たな発見と、深い関心を寄せていただければと思っております。



▲浅草寺境内図屏風

越英文庫 当館保管

第一章 福井藩の参勤交代

参勤交代は、江戸時代に大名が領地と江戸を行き来して一定期間居住した制度であり、大名が江戸に出仕することを「参勤」、領地に身を置くことを交代（交替）と呼んだ。大名の江戸参勤は、寛永12年（1635）の武家諸法度で明記され、まず外様大名の4月交代が定められたが、同19年の改定で譜代大名も対象となり制度化が進んだ。享保期（1716~36）を除いてこの制度が大幅に緩和されたのは、文久2年（1862）のことであり、それは将軍後見職徳川慶喜と政事総裁職松平春嶽が主導した幕政改革によって行われた。

福井藩の参勤は3月に福井を発駕して4月に江戸へ着府することが通例であった。同藩が参勤交代で使用したコースは、国許から江戸へ向かう場合、北陸道・北国脇往還・中山道・美濃路を經由して東海道に入り江戸へ着府するものと、北陸道・北国脇往還・中山道を通行して江戸へ入るものがあったが、東海道の方が多く利用された。その場合14日前後の日程を要したが、天候やその他の条件で延びることもあった。同藩の大名行列は千人規模になる場合もあり、事前に休憩・宿泊する宿場の本陣や下宿を予約しておく必要があった。また、宿場を利用する際には宿場の中や本陣の前に福井藩の関札が掲げられた。



▲関札

（復元品）



一宮市尾西歴史民俗資料館所蔵

第二章 巨大都市江戸の風景

江戸は天正18年（1590）に徳川家康が入城し、慶長8年（1603）に幕府を開いて以降、日本の政治的中心となり、それに伴って江戸城の普請や大名屋敷の建設、町割りなどの大規模な工事が行われて、天下の惣城下町に相応しい都市へと急速に変貌を遂げたのである。そして、江戸は18世紀の初めに、武士・町人その他の人口が100万人を超える、世界有数の巨大都市として発展したのであった。

江戸時代の人々はこうした江戸に憧れと魅力を強く感じていたが、そのことは江戸全体やその名所を描いた屏風絵、浮世絵、眼鏡絵、名所図会の挿絵などの絵画類や江戸の絵図からも見て取れる。特に江戸中期から後期にかけては、日本古来の絵画表現に加えて、現代でいう所の鳥瞰図や西洋から導入された遠近法による表現が用いられるようになり、その典型として鍛形蕙齋が描いた一連の江戸の鳥瞰図や、遠近法で江戸の名所を描いた浮世絵や眼鏡絵（泥絵）が数多く作成されるようになった。これらの作品を通じて今は失われてしまった江戸の風景をイメージしてみたい。



▲江戸一目図屏風

津山郷土博物館所蔵（岡山県指定重要文化財）

第三章 福井藩江戸屋敷

江戸屋敷は幕府が大名に下賜した藩邸であり、藩主の居屋敷である上屋敷以外にも、成長した世子や隠居した藩主の居宅、または別荘として使用中屋敷・下屋敷などがあった。福井藩は初代藩主結城秀康が慶長10年（1605）に麹町屋敷を賜ったのを最初とし、上屋敷は龍之口屋敷、浜町屋敷、常盤橋屋敷と変遷して明治期を迎えた。天保14年（1843）3月の時点で、常盤橋上屋敷・霊岸島中屋敷・神田橋屋敷・本所中之郷下屋敷・品川領戸越村下屋敷の拝領屋敷と、砂村新田内に抱屋敷を所持していた。

常盤橋上屋敷は中央部に御殿が建てられて、その周囲に江戸詰の藩士の住む長屋群があった。堀側には馬場が設けられ、屋敷神も祀られていた。また、天保9年（1838）に拝領した中之郷下屋敷には、起伏に富んだ池泉回遊式の大庭園が造られていた。藩主の江戸での生活は、上屋敷で政務をみると共に学問や武芸に励み、式日には江戸城へ登城し、時折寺社参詣もしている。一方、江戸詰の藩士は、政務を執る仕事や藩主の側仕え、幕府や他藩との折衝、国許との連絡、屋敷の管理や警護、奥向の支配など、さまざまな勤務に追われていたが、非番の際には芝居や名所見物に出かける者も多かったようである。



▲江戸常盤橋邸之図

松平文庫 福井県立図書館保管

第四章 江戸城への登城

江戸時代、大名には年始・八朔・五節句・月次などの式日に登城して将軍に拝謁する重要な勤めがあり、福井藩も例外ではなかった。大名が登城する際には行列を組み、居屋敷である江戸上屋敷から登城する門まで進んだ。同藩では8代藩主松平吉邦が常盤橋上屋敷を拝領し、それ以降は同屋敷を出て江戸城大手門へと向かったが、その間の距離は五町（約545m）あったとする。但し、門内からは随行者の人数が大幅に制限されたため、各藩では藩主が戻るまで多数の家臣が門外下馬先で待たなければならず、その様子は年始登城図屏風などからも窺える。

大名の江戸城中での控の間（殿席）や式日に将軍へ拝謁する場所（礼席）は、それぞれの家格によって定められており、江戸後期における福井藩主の控の間は加賀藩主などと同じ大廊下下之部屋であり、同上之部屋は御三家の控の間であった。また、正月元旦の年始御礼の儀式の場合、福井藩主は白書院で、官位の高い上之部屋の御三家の当主や、下之部屋の加賀藩主に引き続き、将軍に年賀の謁見をしていた。これらの点からも、諸大名の中で越前松平家の格式が高かったことを窺うことができる。



▲江戸城年始登城風景図屏風（右隻）

東京都江戸東京博物館所蔵

第五章 拝領品と献上物

江戸時代に幕府（将軍家）と藩（大名家）との間では、相互の主従関係を親密にしていくために贈答行為が盛んに行われ、大名は年間を通じて将軍家へ献上物を贈り、その一方で定期的に拝領品を下賜されたのである。献上物の中には藩内の領産物も含まれており、福井藩からも季節に応じて初鯖、塩鮎、生鮓などが江戸へ送られた。なお、拝領品や献上物の種類や数には各大名家で違いがあったが、それは家格の差を表すものでもあった。

また、大名は家督相続、初御目見、元服、叙任、婚姻、致仕などといった人生の重要な節目に、将軍家へ献上物を贈ると共に、将軍家より拝領品を賜った。越前松平家にも将軍家から下賜された拝領品が伝来しているが、今回は藩主襲封や婚約などの際に賜った拝領品や、将軍家から輿入れした藩主夫人が登城した折に頂戴した品などを選んで展示した。



▲オルゴール付枕時計

福井市春嶽公記念文庫 当館蔵

第六章 松平春嶽の政事総裁職就任

安政5年（1858）、将軍継嗣問題で徳川慶喜を推す一橋派を主導した福井藩主松平慶永（春嶽）は、紀州藩主徳川慶福を推す南紀派との政争に破れ、大老井伊直弼の政治的弾圧（安政の大獄）によって、隠居・急度愆の厳罰に処せられ、江戸の霊岸島中屋敷で謹慎生活を送った。その後万延元年（1860）3月の桜田門外の変で井伊大老が暗殺されて、公武合体を推進する老中安藤信正と久世広周が登場すると、文久2年（1862）2月に皇妹和宮の将軍徳川家茂への降嫁が実現するなど、政治情勢は大きく変わり始めた。

同年3月薩摩藩の島津久光は藩兵を率いて上京し、朝廷に幕政改革の勅命を強く求めたが、その結果勅使大原重徳が江戸へ下ることになり、これに久光も随行した。幕府へ対して勅使大原と久光は勅旨をかざして慶喜の将軍後見と春嶽の大老の任命を迫り、結局、慶喜が将軍後見職に就き、5月に政界復帰していた春嶽も政事総裁職に就任した。改革の方針は、春嶽の政治顧問であった横井小楠の建策（「国是七条」）によって進められたが、因循な老中や幕臣たちの抵抗によってなかなか進展しなかった。しかし、小楠らの説得もあって、参勤交代の緩和や大名の妻子の帰国、軍勢力の整備などが徐々に実行に移されていったのである。



▲松平春嶽肖像写真

福井市春嶽公記念文庫 当館蔵

出品目録

No指定	資料(作品)名	員数	所蔵先(保管者)
第一章 福井藩の参勤交代			
1	福井城郭各御門其他見取絵	一卷	越葵文庫 当館保管
2	東海道道中帳	一綴	当館蔵
3	福井少将様御宿割帳	一綴	
	肥田嘉昭氏蔵	長浜市長浜城歴史博物館寄託	
4	関札	一枚	一宮市尾西歴史民俗資料館
5	関札(復元品)	一枚	当館蔵
6	越州様家来宿札	二枚	
	肥田嘉昭氏蔵	長浜市長浜城歴史博物館寄託	
7	〇御休泊記録	一冊	豊橋市二川宿本陣資料館
8	二川宿本陣絵図	一枚	豊橋市二川宿本陣資料館
9	東海日録草稿	一冊	福井市春嶽公記念文庫 当館蔵
第二章 巨大都市江戸の風景			
*110	□江戸一目図屏風	六曲一隻	津山郷土博物館
*211	江戸一覽図	一幅	平井聖氏蔵
*212	江戸絵図	一枚	松平文庫 福井県立図書館保管
13	浅草寺境内図屏風	八曲一隻	越葵文庫 当館保管
14	浅草絵図	一枚	松平文庫 福井県立図書館保管
15	反射式覗き眼鏡	一点	福井市春嶽公記念文庫 当館蔵
*316	眼鏡絵	一帖	福井市春嶽公記念文庫 当館蔵
*317	眼鏡絵	九枚	柴花江氏蔵
第三章 福井藩江戸屋敷			
18	江戸常盤橋邸之図	一枚	松平文庫 福井県立図書館保管
19	江戸常盤橋御屋敷之図	一枚	松平文庫 福井県立図書館保管
20	内桜田之図	一枚	松平文庫 福井県立図書館保管
21	江戸霊岸島御屋敷之図	一枚	松平文庫 福井県立図書館保管
22	日本橋南之絵図	一枚	松平文庫 福井県立図書館保管
23	霊岸島屋敷跡出土品	一括	東京都中央区教育委員会
24	中之郷屋敷図	一幅	酒井康氏蔵 当館寄託
25	家譜	一冊	越葵文庫 当館保管
26	大名屋敷眼鏡絵	一枚	柴花江氏蔵
27	新撰東京名所図会	一冊	藤川明宏氏蔵
28	江戸御屋敷御由緒并坪数書	一綴	松平文庫 福井県立図書館保管
29	伊予殿屋敷図	一枚	池田家文庫 岡山大学附属図書館
30	奉答紀事	一冊	松平文庫 福井県立図書館保管
31	江戸御屋敷御条目類	一冊	松平文庫 福井県立図書館保管
32	真雪草子	一冊	福井市春嶽公記念文庫 当館蔵
33	家譜	一冊	越葵文庫 当館保管
34	菊花流水蒔絵書箱・源氏物語	一合	越葵文庫 当館保管
35	橋本左内宛村田巳三郎書状	一卷	福井市春嶽公記念文庫 当館蔵

- *1 No.10・58は10月4日(土)～10月27日(月)まで展示します。
 *2 No.11・12・59は10月29日(水)～11月9日(日)まで展示します。
 *3 No.16・17・37は期間中展示替えをします。

No指定	資料(作品)名	員数	所蔵先(保管者)
第四章 江戸城への登城			
36	江戸城と周辺大名屋敷絵図	一卷	平井聖氏蔵
*37	江戸城年始登城風景図屏風	六曲一双	東京都江戸東京博物館
38	福井藩主供立行列図	一卷	当館蔵
39	十文字槍・槍鞘	二点	越葵文庫 当館保管
40	江戸城本丸表中奥絵図	一枚	越葵文庫 当館保管
41	千代田之御表	一帖	東京都江戸東京博物館
42	泰平万代大成武鑑	一冊	松平文庫 福井県立図書館保管
43	進退彙纂	一冊	越葵文庫 当館保管
44	幕儀参考稿本	一冊	福井市春嶽公記念文庫 当館蔵
45	青紙紙	一帖	東京都江戸東京博物館
46	青地精好直垂	一領	越葵文庫 当館保管
47	一字書出	一通	松平文庫 福井県立図書館保管
48	家譜	一冊	越葵文庫 当館保管
第五章 拝領品と献上物			
49	オルゴール付枕時計	一基	福井市春嶽公記念文庫 当館蔵
50	梅花山鶏模様蒔絵見台	一基	個人蔵
51	御大切之御細工物	一括	福井市春嶽公記念文庫 当館蔵
52	金沃懸地松鶴鹿図蒔絵印籠	一点	福井市春嶽公記念文庫 当館蔵
53	徳川家慶筆牡丹図	一幅	福井市春嶽公記念文庫 当館蔵
54	短刀 銘 国光	一口	福井市春嶽公記念文庫 当館蔵
55	太刀 銘 恒次	一口	福井市春嶽公記念文庫 当館蔵
56	新版改正嘉永武鑑	一冊	松平文庫 福井県立図書館保管
57	諸大名・諸役人献上物書上	一冊	東京都江戸東京博物館
*158	徳川家光御内書	一通	越葵文庫 当館保管
*259	老中奉書	一通	松平文庫 福井県立図書館保管
60	家譜	一冊	越葵文庫 当館保管
61	福井藩十二ヶ月年中行事絵巻	一卷	福井市春嶽公記念文庫 当館蔵
第六章 松平春嶽の政事総裁職就任			
62	勅書御写	一通	福井市春嶽公記念文庫 当館蔵
63	江戸幕府分限帳	一冊	平井聖氏蔵
64	御意之振	三通	財団法人徳川記念財団
65	松平春嶽建言	一卷	福井市春嶽公記念文庫 当館蔵
66	国是七条(複製)	一卷	当館蔵

○は愛知県指定文化財、□は岡山県指定重要文化財

《関連展示》「江戸時代の旅とお江戸の暮らし」(小中学生向け展示)
 日時：10月4日(土)～11月9日(日) 午前9時～午後7時
 但し、10月28日(水)は休館します。

《講演会》「江戸城と江戸の大名屋敷」(演題)
 日時：10月13日(木) 午後2時～3時30分
 講師：平井 聖氏 (前昭和女子大学学長)

《見どころ講座》「福井藩と江戸」 担当学芸員による見どころの説明
 日時：10月18日(土) 午後2時～3時30分

『展示解説シート No.36』平成20年10月4日発行
福井市立郷土歴史博物館
 福井市宝永3-12-1 電話 0776-21-0489
 Fax 0776-21-1489
 担当：印牧 信明

製作/小川印刷

※場所はすべて福井市立郷土歴史博物館 講堂